

★★★★★★★ NPO イカス メールマガジン ★★★★★★★★★★★★★★★★

2025年2月25日発行

活かす通信

2025年3月（第212号）

<http://npo-icas.com/>

★★

巻頭言 勝池レポート アジア資産運用アドバイザー 勝池和夫

「七福神と資産形成」

★★

一月にイカス主催の日本橋七福神巡りに参加しました。三宅あみ（ジャパネスクナビゲーター）さんの、丁寧な説明や、蔦屋重三郎が「耕書堂」を構えた人形町界隈の散策も楽しく、学びと元気をもったツアーでした。

七福神とは一般的に恵比須、大黒天、毘沙門天、弁財天、布袋、福祿寿、寿老人とされています。三宅さんから資料によれば、その起源は室町時代末期頃、それぞれ日本に伝わっていた様々な背景（神道、ヒンドゥー教、仏教、道教）の神仏7柱をまとめてセットで信仰したのが始まりだそうです。

今回の七福神巡りで一番長い行列ができていたのは小網神社です（右写真）。七福神では弁財天と福祿寿が祀られ、「強運厄除けの神」として知られる当社は、日本に忍び寄る「人口減少」「自然災害」「地政学リスク」などの「厄」から身を守り、同時に精彩を欠く経済の中で暮らしながらも「財運」を開いてくれる強力な二刀流の神様のようですね。

ところで、七福神の中でインドのヒンドゥー教由来である三神、**（大黒天、毘沙門天、弁財天）**を合体させた尊像が京都にあります。中央写真の東山の高台寺圓徳院に伝わる「三面大黒天」です。この「三面大黒天」は豊臣秀吉の守り本尊であり、正面・向かって左面・右面と三つの顔を持ち、それぞれ福の神「大黒天」、勝利・子宝の神「毘沙門天」、学問・芸術の神「弁財天」の三天合体神です。単独でも強力な天部が三位一体となったこの最強パワーの福の神を、秀吉は肌身離さず持っていたと言われていました。

では、自分の金融資産に小網神社や三面大黒天の様なパワーを与えることはできるのでしょうか。それはやはりインドへの長期投資に可能性がありそうです。インドは国力の向上でリスクという「厄」が減る一方で、若い人材、AI/宇宙開発等の技術革新、民主主義を基に「運」が開けてくる環境にあります。インドへの投資は、これからの私たちの金融資産の守り本尊（コア）として大いに期待できそうです。七福神巡りは資産形成の大きなヒントになりました。

<末廣神社：毘沙門天>



<圓徳院：三面大黒天>



<小網神社：弁財天・福祿寿>



★★

ムッシュ望月の2月の相場展望

103万円の壁突破で再生日本の道開け

★★

日本の政官財人及び投資家は、日米首脳会談の会談に対して固唾を呑んで見守っていたが、両首脳は初の出会いから共同声明まで友好的に接したことで安堵感が高まった。しかし第二次トランプ政権の関税対策は強行で、自動車に対しては25%程度を検討し、4月2日にも発表される、又は半導体、医薬品に対しては未定であるが20%程度を検討している。そのような不安定な状況下、日銀の金融政策についても変化が見られる。好調な企業業績及び来年度の企業の賃金引き上げに関しても、6月予定が3月の日銀金融政策決定会合で行われる可能性も高まりつつある。話題の「103万円の壁」に関しても自民党の提案は一貫して財政を理由に否定的であり、まだ春が来るには時間がかかりそうである。そのような環境下で、埼玉県八潮市で大きな水道管事故が発生し、政府・自治体は対応に苦慮している。このような状況下だけに、今期は非常に良い業績ながら来期についてはかなり保守的な予想になっていることから、日経平均株価は38000円～40000円のボックス相場から抜け出せないでいる。円高の進行次第では37000円程度まで売り込まれる可能性もある。

1月28日、埼玉県八潮市の県道で、陥没した道路にトラックが転落。陥没事故は発生から3週間が経過しようとしているが、いまだ収束が見えない状況で、復旧までは莫大な費用と時間を要しそうだ。下水道管の破損が原因とみられており、道路陥没事故の未然防止に向けて各地で緊急点検が相次いでいる。老朽化するインフラへの関心が急速に高まるなか、水道管や道路の空洞調査・点検急務となっている。八潮市にとどまらず、日本の各地でインフラの老朽化する

インフラに対する関心が高まっている。

この事故を受けて、国土交通省は事故現場と同様の大規模な下水道管路を管理する7都府県に対し緊急点検と補完的に路面下空洞調査の実施を要請した。前週末14日に調査結果を公表し、管路の腐食などの異状が埼玉県の3カ所で確認され、必要な対策を速やかに実施するよう要請したという。また、空洞調査では下水道管路に起因する空洞の可能性がある箇所は、現時点では確認されなかった。更に、前述の7都府県以外でも、多くの自治体が自主的に緊急点検を実施していると伝わるなど、水道インフラ老朽化への懸念が深まっている。

こうしたなか石破茂首相は、6月をメドに策定する国土強靱化計画に「下水道の老朽化対策」を盛り込む要請をした。

国交省では、今後20年間で、建設後50年以上経過する施設の割合は加速度的に高くなるとみているが、一斉に老朽化するインフラを戦略的に維持管理・更新するには、膨大な経費と時間がかかり一朝一夕でできるものではなく、緊急性を必要としながらも、息の長いテーマとなりそうだ。2012年12月の笹子トンネル事故が参考となる。水道管や道路の空洞調査・点検など、ドローン・DXなど先端技術の活用で難局打破へむかうことが出来る銘柄を考えてみたい。

関連銘柄としては、

日本ヒューム(5262)、土木管理総合研究所(6171)、日水コン(261A)、栗田工業(6370)、ブルーイノベーション、NJS(2325)、応用地質(9755)、いであ(9768)ベルラクスコーポレーション(5290)、オリジナル設計(4642)等が挙げられる。現在は「噂を買う」段階であり、一旦の調整後は本命株がハッキリ見えてくることになろう。もう少し先を読む筋は「103万円の壁」

関連銘柄としては、タイミー(215A)、パーソル(2181)に注目したい。

市場の流れは速いので、次のテーマに備えることも大切で、「103万の壁」関連銘柄への投資タイミングを考えてみましょう。タイミー(215A)、パーソル(2181)。日銀は早い段階での金利引きを想定していると思われ、3月の日銀金融政策決定会合まで金融株が買われることに。流れは出遅れの静岡銀行に及び出している。

★★

深月ユリア (フリージャーナリスト)

日米首脳会談、石破首相は対等な日米関係を築けるか

★★

【日米首脳会談はオタク気質の石破首相の功績か】

2月7日、ホワイトハウスで石破茂首相とドナルド・トランプ大統領による初の日米首脳会談がホワイトハウスで行われた。2期目のトランプ大統領が会う外国の首脳として、石破首相はイスラエルに続いて2番目である。

結論からいえば、石破首相のトランプとの初会談は大成功といえるだろう。

石破首相はトランプ大統領に「非常に強い男」と評され、日本政府内には同氏に「組める相手」と印象づけることに一定の成果を得られたと多くのマスメディアに評価され、2月7～10日の石破首相の支持率もNHKの調査によると5%上がり44%となった。

当初、複数のメディアや評論家は生真面目でオタク気質な石破首相と劇場型政治家でビジネスマンであるトランプ大統領とは相性があわないのではないか？という懸念を抱いていた。

しかし、オタク気質な石破首相はトランプ大統領に関しても、熱心に研究たのみだ。

定期的なトランプ大統領に関する勉強会で複数の講師からトランプ大統領の性格・政策について講義を受け、独学でトランプ大統領に関する著書を読みあさっていた。

勉強会の講師によると、

「石破首相はトランプと対決せず、人としておだて、アメリカへの経済投資を持ちかけるという作戦に徹した」という。

【石破首相は田中角栄の外交政策を受け継ぐ】

もちろん、日米の政策で考え方が一致しないものはある。

例えば、トランプ大統領は親イスラエルでガザからパレスチナ人を追い出し、アメリカとイスラエルでガザを管理するつもりだ。しかし、石破首相はガザはパレスチナとイスラエルとの2国家解決を引き続き支持している。更に、ガザからの避難民を日本が喜んで受け入れることを表明している。

対中政策についても、石破首相は田中角栄元首相の外交をモデルとし、日本はアメリカからみた中国の防波堤になるのではなく、中国・アメリカ両国と対等

な関係性を構築しようとしている。中国は日本にとって最大の貿易相手国であり、日本企業にとっても最大の投資先のひとつなので、日本が中国と対立するメリットはない。

しかし、トランプ大統領にとって中国は仮想敵国であり、中国にたいして60%の関税をかけようとしている。

石破首相は日米両国の立場は違えど、日本とアメリカが互いに協力しあえる面、日本がアメリカにとってどれくらいメリットがあるかを、ビジネスの取り引きのように端的にプレゼンした。

そして、アメリカに対する投資学を一兆ドルまで引き上げることを表明し、「公開前の情報だが」と前置きしたうえで、ISUZUがアメリカに工場を新設するなどの話もした。よくある心理学の相手の心を開かせるテクニックに「あなただけに伝える話」をするというものがある。

そして、注目されているUSスチール買収問題に関しては、「買収ではなく投資だ」と主張した。

トランプ大統領はユートピア的な理想論を述べあう首脳会議より、具体的な数字を提示した取引を好むので、この作戦は適切だろう。

【石破首相はトランプにとって「強い男」か】

トランプはプーチンのような「強い独裁者」に憧れている。自分に媚びる人間は都合よく利用するが、強い人間、特にマキアベリズムの強い政治家には好印象を持つようだ。

これまでの日本の首相は日米地位協定という不平等条約の元、アメリカには逆らえず、日米会談でもアメリカに媚びた態度をとる首相が多かった。

しかし、石破首相は会談中、トランプに媚びるどころか、日本のメディアからは「失礼ではないか」と批判されるほど椅子に深々と座り、肘をついたまま握手し、記者たちの前でトランプ大統領に関するジョークを言った。

「(トランプ大統領の印象について)テレビで見ると声高で、かなり個性強烈。恐ろしい方という印象が、なかったわけではないが……」

「実際にお目にかかると、本当に誠実な、力強い、強い意志を持たれた方。合衆国と世界への強い使命感を持たれた方と、まったくお世辞抜きで感じたところですよ」

ここで石破首相は、下げてから上げるという心理学テクニック鉄板の「ギャップ褒め」を展開した。

また、ナルシストなトランプ大統領の性格を読んでか、トランプ大統領が好むストーリーを語った。

「安倍元総理のご夫人、安倍昭恵さんを通じまして、大統領閣下の本を頂戴いたしました。そこにはPEACEと書かれておりました。非常に感銘を受けましたところでございます。そこには大統領閣下の深い思いが込められていると感じます。

昨年7月であったかと思えます。大統領になられる前でしたが、狙撃をされたとき、ひるむことなく立ち上がり、こぶしを手に突き上げて。その時の写真が非常に印象的でありました。その背後には星条旗がはためき、そして青い空が映っていた。あの写真はおそらく歴史に残る一枚だったと思えます。あの写真を見て、私はおそらく大統領閣下の時に、自分はこうして、「神様から選ばれたんだ」「必ず大統領に当選し、再びアメリカを偉大な国に」、「そして世界を平和に」、そのように確信されたに違いないと思えました」

この話を聞いたトランプ大統領は「Very nice. Thank you」と喜んでいた。ここで、石破首相自身「トランプが神に選ばれた」と思っているとは言わず、「トランプが神に選ばれた、と自分自身で確信しているに違いない」という表現を選んだことも、実に巧妙である。前者の表現をしてしまったら、トランプ大統領を「神に選ばれた」と自ら認めてしまい「神に選ばれし大統領と、ただの日本の首相」という上下関係が発生するが、後者はあくまで「神に選ばれた」ことをトランプ大統領が勝手に信じている(妄想している)という意味になる。

石破首相自身がキリスト教徒であり、信者同士であるが故に成り立つ会話だったのかもしれない。深読みすれば、

「トランプ大統領自身が神に選ばれたと確信しているなら、神が喜ぶような正しい行いをしなければならない。それによって、トランプ大統領が本当に神に選ばれたのか、ただのおかしな妄想を抱くデマゴグか分かる。いまこの場で世界中が証人だ」

というプレッシャーも同時に与えることができる。

会談中にアメリカが日本との貿易に関して追加の関税をかけるかの話は出なかったのも、もし追加の関税税をかけたなら日本は報復関税をかけるのか」との記

者の質問に、『『仮定のご質問にはお答えをいたしかねる』というのが日本の大
体定番の国会答弁だ』と返し、笑いをとった。

これに関して、トランプ大統領は「とても良い答えだ。首相は自分が何をすべ
きかわかっている」とコメントして、記者から石破首相の印象を聞かれた際に
「非常に強い男だ (I think he's a very strong man.)」「素晴らしい仕事を
するだろう。もうちょっと弱いほうがよかった」と冗談交じりに答えた。

【「あなたは偉大な総理になるだろう」に込められた皮肉】

今回の会談は石破首相、トランプ大統領とのお互いの探りあいの意味が強かつ
ただろう。これらの会話は互いに思ってもいないことを誉めあい、言葉の裏に
は毒々しい皮肉が含まれていて、それに対してどんな反応をするのか、互いの
技量を計り合っているようにも聞こえる。

トランプ大統領は石破首相に、「あなたは偉大な首相になるだろう You will be
a great Priime Minister」と直筆の色紙を送ったことが多くのマスメディア
に評価をされているが、筆者はここにも皮肉なニュアンスを読みとった。「な
るだろう」とは未来形であり、随分と上から目線ではないか。

「まだ偉大な首相ではない(安倍元首相は偉大だったが、君はまだこれから)」
とも読める。石破首相はかねてより総理になって日本を改革したいという使命
感が強く「首相になるならば天命」という著書も出版している。神からの天命
を受けた歴史に残るような「偉大な総理」になりたいのである。

トランプ大統領は石破首相のこのような悲願を知るが故に、「あなたが偉大な
総理になる可能性がある。ただし、そのためには世界のトップであるアメリカ
からも評価されなければならず、安倍元首相のように、アメリカの良き子分と
なれば、偉大な総理だと評価してやる」というメッセージを発信したと考える
のは深読みのし過ぎだろうか。

今回の日米会談では、石破首相のトランプ大統領だろうが誰だろうが、人類を
平等にみる考え方と、研究熱心なオタク気質が武器になったのかもしれない。
石破首相が今後の日米関係をより対等なものに変えていくことに期待したい。

ユリア記

2025年03月以降िकासスケジュール

03月05日(水): 15:00~花咲投資クラブ (A)

03月06日(木): 13:30~御苑貴族投資クラブ (A)

03月15日(土): 15:00~スペリオール投資クラブ (B)

03月27日(木): 15:00~東京3E投資クラブ (A)

04月02日(水): 15:00~花咲投資クラブ (A)

04月03日(木): 13:30~御苑貴族投資クラブ (A)

04月19日(土): 15:00~スペリオール投資クラブ (B)

04月24日(木): 15:00~東京3E投資クラブ (A)

★िकासの投資クラブ参加費は2025年から3500円、(C)(D)は4000円

िकास主催の株式投資塾

03月19日(水): 15:00~「株のお姉さん雨宮京子」株式投資塾 (D)

03月25日(火): 18:30~「ムッシュ望月の株式投資塾」(C)

04月16日(水): 15:00~「株のお姉さん雨宮京子」株式投資塾 (D)

2025年2月26日15時~17時: 第2回िकास経済金融文化塾 in 萬来社

講師: 勝池和夫氏 (タタアセットアドバイザー、ICAS 常任理事):

「インド経済のトランスフォーメーション、より速く、より高く、より強く」

2025年3月22日(土): 10:00~17:00、春の房総半島の旅「伊八の里巡り」

ツアコダクターは郷圭子(朗読家、िकास理事)、現地料金14000円

9時東京駅発いすみ駅へ、現地で4つのお寺巡り+菜の花慣行

2025年3月26日(水)15時~17時: 第3回िकास経済金融文化塾 in 萬来舎、

講師: 郷圭子理事・朗読家、参加費4000円(飲み物込み) 学生2000円

朗読会: タイトルは当日のお楽しみ「お金は生き物である」 in 萬来舎

2025年4月25日(金)15時~17時、第4回िकास経済金融文化塾 in 萬来舎

講師: 小田俊氏(元イラントーメン社長、INPEX・SLTアドバイザー)

「オイルマンから見た中東情勢」

2025年6月6日(金)18時~21時: 第44回िकास交流会夏の交流会、

外国特派員協会、講師: 村上雅則氏(日本人メジャーリーガー1号)

音楽: ソプラノ歌手首代明子氏、ベルディ「乾杯の歌」

投資クラブ会場は(A)新宿御苑前中交公ビル604 (B)はニュー

新橋ビル3F昭和ブックカフェ、(C)は萬来舎、(D)は日本橋大栄ビル

info@npo-icas.com <http://www.npo-icas.com>